

先づ二箇の空論未成
之有本に氏ありの共同演説
也何れも申すに力を尽す
批評のせよ空論の凡の人格
者也之の道理をおさす
合く獨断偏見ありしを、
未成氏由來矛盾の説を
——未だ自家ありの調攝
を以て二氏に要するに宗教
哲學に如ふるに慢心狂意
もの、其の病的たるを免れ
者未成二氏と大に趣きを
異し強と覺ゆるを疑は
しむるに己れが入門の階梯を
りし其の理を説くもの
多しし未成も皮殼を
脱するに多しと云ふは其の
みだりかたきらぶの無情
疎まとは左佛敎のあがら

揚々たるを取らぬる事因也

おまの字印の三氏のたのみの苦み申

一

ふなりへ今より宗教内起つて

可の中西午郎氏なるが留る

せいのものと異つて合く人心最

奥のあはれなる一とら

るな家善用者の好む所

とゆつたりし人の人しちむ

自覚の上根の士女の子

出現のものと代ド御者

ふり堪へたむ力を昔の若子殿

の世のしなまの自覚

あふれし必おちたを遠き

のののののののののののの

女と宗教家としての異なり宗教

家と宗教家たるは格ある人の

諸君あはれ曲居夫ちう工人たこと

諸君あり。それと擇おすしは

自覚者とあはれし人の人

のみ宗教家とあはれし人の人

家々宗教家あり。其格あり人の

諸君あり。農夫あり工人あり

諸君あり。これ擇おすしは

自学者とよ。其の人

のみ宗教家とよ。其の

人宮崎、また、福島の、松本

氏の如き人格あり自ら宗教家

とよ。其の人は得るものあり

戒めあり。古來の如きものあり

謂ゆる宗教家とよ。其の

自行化他の資格あり。其の

あり。其のあり。其の

す。其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

其のあり。其の

私書の内容の人は二十世紀の

宗教家たるにはな~~ら~~ず

伊藤正徳氏の無私花を解き

たる「何の」無私の花

うんぬんやうな~~ら~~ばこの宗教

家~~の~~の理解を~~し~~の中心か

動搖せしはあらず自家の辯才

智慧が宗教家たるに~~あ~~るせ

知しぬらん伊藤氏~~の~~其~~の~~曲を~~聞~~

の~~を~~行き記し~~て~~自己の~~の~~真の

人~~の~~の~~の~~執~~ら~~ず~~る~~らん

是れ實に~~の~~を~~し~~て~~を~~するらん

何れの~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

教家たる~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

又~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

その~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

今~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

瓦~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

さ~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

その~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

を~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

業~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

その~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

その~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

その~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の~~の

その詩的誇張の比喩文字を以て
今後より自覚の境地を示す
尾句の「^を解^る子因^ふを^は」
さやむ^る其^の人^と君^しくは^尊卑

とて人とあひ^てと^りて^もを^んん
を^の先^に裁^断す^る自^覚の^境地^を

染^れん^る事^も二^つの^心の^法
二^つの^心の^法は^其の^力の^法

ちて^は作^し後^述の^人の^接
し^らん^が貴^侍の^現の^の

教^育の^完全^しし^て韓^才知^慧
み^欠く^るも^よく^しら^ん自^覚

他人の^言語^も以^て代^わる^の
意^を之^にあ^らん^をも^よ

此^のの^のの^の
の^のの^のの^の

後^に地^方の^考り^の考^り
考^りの^考り^の考^り

考^りの^考り^の考^り
考^りの^考り^の考^り

考^りの^考り^の考^り
考^りの^考り^の考^り

叶はすこの状あるをはおせ
の葉のきわむたくとけ
海田屋より送りのるを
白紙のしつとを
敵(の)もあつたが但し
難をきくぬ氏の措けの餘程
ラシカし子備しと
思想と仔はあゝ感の
技巧道をもよおす
ワるえの関をせよ
ニト
定
法々認るる

大坂市外、下三本町、萩寺
隣

角田勤一郎様



あまの駒のあまの
よめ定

